日本共産党杉並区議会議員
くすやま美紀（樟山みき）活動報告
2021. 7. 29　NO. 314
連絡先　荻窪5－15－19－704　電話 080－5531－8236
区議会控室　3312－2111(内)2319　FAX 3312－2610

核兵器のない世界を

平和行進、平和のつどい開かれる

核兵器兵器禁止条約への参加を求め、元気に行進！

核兵器の廃絶を訴えながら日本全国を行進する「国民平和大行進」が取り組まれています。杉並区では7月21日に開催され、杉並区役所前から中野区の杉山公園までの約3ｋｍを行進しました。

新型コロナ感染症対策のため、昨年同様、少人数での開催でしたが、約20名の行進参加者は核兵器廃絶を求める横断幕や団体旗を掲げ、核兵器廃絶と日本政府が核兵器禁止条約を批准することを呼びかけ、元気に歩きました。

区役所前で行われた出発式には、平和施策を担当する区民生活部の管理課長がかけつけ「杉並区も平和都市を宣言しており、核兵器廃絶への思いは参加されている皆さんと同じです」と参加者へエールを送りました。

区内の各団体から、核兵器禁止条約の批准を求める運動を強めていく決意が語られ、日本共産党区議団からは、私が挨拶に立ち、区議会で核兵器禁止条約を批准するよう政府に求める陳情が、自民・公明などの反対によって否決されたが、今後も粘り強く取り組んでいく決意を述べました。

（上）出発式の参加者
（右）横断幕をもって青梅街道を行進する原田都議と私

胸に迫る被爆者の証言

同日夜には、東京土建杉並会館で「すぎなみ平和のつどい」がオンラインで開催されました。

つどいでは、杉並区内で活動する被爆者団体「杉並光友会」の塚本美和子さんによる被爆証言の録画映像が上映されました。塚本さんは、広島の爆心地で被爆し5日間苦しんで亡くなった父親や、夫を探しに爆心地に入り原爆症で倒れた母親について話され、「両親の無念や核兵器の恐ろしさを伝えるのがライフワーク。人々に原爆の真実を知ってもらうために、命ある限り訴え続けたい」と語りました。

私も、かつて被爆者団体で働いていた者として、核兵器禁止条約に日本が速やかに参加するよう、みなさんとともに取り組んでいく決意です。

報告する杉並平和委員会の代表

お困りごと・ご相談は、お気軽に上記連絡先まで、お電話ください

とんでもない！

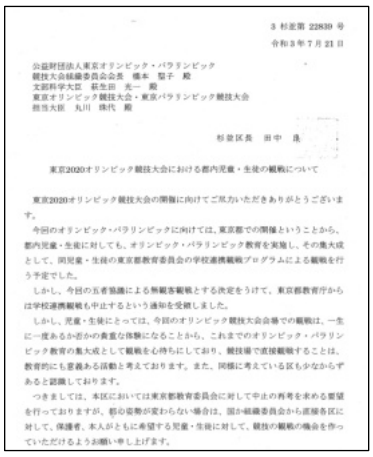
緊急事態宣言下、児童生徒の五輪観戦を求め

区長が東京都と国に要請書を提出

直接観戦にこだわる区長

杉並区の田中良区長が、都教委や国、組織委員会に対し、学校連携観戦の中止について再考を求める旨の要請書を、今月21日に提出していたことが、区からの連絡でわかりました。

要請内容は、東京都教育庁が中止を決定したオリンピックの学校連携観戦について、保護者、本人がともに希望する児童・生徒に対して観戦の場を作るよう再考を求める、というもので、国に対しては都の姿勢が変わらない場合は国か組織委が直接観戦機会を作ることを求めるというものです。



3 杉並第 22830 号
令和3年7月21日

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック
競技大会組織委員会会長　橋本 聖子　殿
文部科学大臣　萩生田 光一　殿
東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会
担当大臣　丸川 珠代　殿

杉並区長　田中 良

東京2020オリンピック競技大会における都内児童・生徒の観戦について

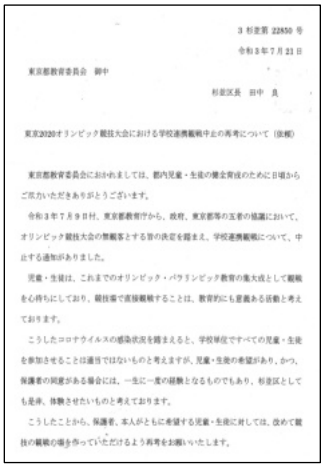
東京2020オリンピック競技大会の開催に向けてご尽力いただきありがとうございます。

今回のオリンピック・パラリンピックに向けては、東京都での開催ということから、都内児童・生徒に対しても、オリンピック・パラリンピック教育を実施し、その集大成として、同児童・生徒の東京都教育委員会の学校連携観戦プログラムにより観戦を行う予定でした。

しかし、今回の五者協議による無観客観戦とする決定をうけて、東京都教育庁からは学校連携観戦も中止するという通知を受領しました。

しかし、児童・生徒にとっては、今回のオリンピック競技大会会場での観戦は、一生に一度あるか否かの貴重な体験になることから、これまでのオリンピック・パラリンピック教育の集大成として観戦を心待ちにしており、競技場で直接観戦することは、教育的にも意義ある活動と考えております。また、同様に考えている区も少なからずあると認識しております。

つきましては、本区においては東京都教育委員会に対して中止の再考を求める要望を行っておりますが、都の姿勢が変わらない場合は、国か組織委員会から直接各区に対して、保護者、本人がともに希望する児童・生徒に対して、観戦の観戦の機会を作っていただけるよう御願い申し上げます。



3 杉並第 22830 号
令和3年7月21日

東京都教育委員会　御中

杉並区長　田中 良

東京2020オリンピック競技大会における学校連携観戦中止の再考について（依頼）

東京都教育委員会におかれましては、都内児童・生徒の健全育成のために日頃からご尽力いただきありがとうございます。

令和3年7月9日付、東京都教育庁から、政府、東京都等の五者の協議において、オリンピック競技大会の無観客とする旨の決定を踏まえ、学校連携観戦について、中止する通知がありました。

児童・生徒は、これまでのオリンピック・パラリンピック教育の集大成として観戦を心待ちにしており、観戦場で直接観戦することは、教育的にも意義ある活動と考えております。

こうしたコロナウイルスの感染状況を踏まえると、学校単位ですべての児童・生徒を参加させることは適当ではないものと考えますが、児童・生徒の希望があり、かつ、保護者の同意がある場合には、一生に一度の経験となるものでもあり、杉並区としても是非、体験させたいものと考えております。

こうしたことから、保護者、本人がともに希望する児童・生徒に対しては、改めて観戦の機会を作っていただけるよう再考をお願いいたします。

区長が出した要請書
（日本共産党杉並区議団のホームページに掲載しています）

子どもたちの命と健康を守るため区議団は中止を要請

党区議団は、子どもたちを新型コロナの感染や熱中症の危険にさらす学校連携観戦は、区として中止を決断するよう、一般質問や委員会、二度にわたる申し入れで求めてきました。

その後、都教委は、無観客の決定を受け、学校連携観戦の中止を区市町村教育委員会に通知しました。

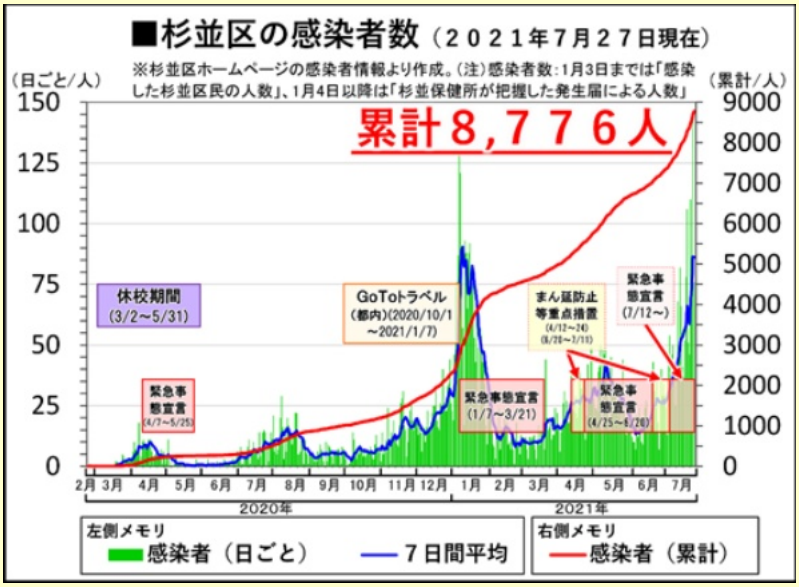
新型コロナの感染拡大に歯止めがかからず、東京都では7月12日に4度目の緊急事態宣言が発令され、本来ならオリンピック・パラリンピックは中止すべき事態です。人流を極力抑えるべきと言われている緊急事態宣言中に、五輪のみ聖域化し、児童生徒の観戦機会を作れというのは、どう考えても矛盾しています。

この間の感染拡大は深刻で28日の都内の新規感染者は3，117人と二日連続で過去最多を記録。区内でも26日には過去最高となる142人の感染者が確認されています。（7月28日現在）

五輪よりも命が大事

区長は要請書の中で「競技場での直接観戦は、教育的にも意義ある活動」としていますが、何よりも子どもたちの命と健康を守ることが最優先されるべきで、中止の再考を求めるなど言語道断です。

党区議団は、これに強く抗議し、撤回を求めるとともに、パラリンピックの観戦についても中止の決断を求めています。



28日、東京都の感染者がついに３００人を超えました。

杉並区でも感染者数が激増し、19日からの1週間合計の感染者数は５１５人に・・・。26日の週はさらに悪化する見込みです。

東京五輪は直ちに中止し、コロナ対策に全力を尽くすべきです。